

# お茶の水女子大「新フンボルト」 プレゼミナールレポート

セミナー難易度 9割以上が「わかりやすい」と回答

旺文社 教育情報センター 29年1月5日

難関国立大での「新たな」推薦・AO入試の導入に注目が集まるなか、お茶の水女子大は「新フンボルト入試」を実施した。高校生にとってハードルの高い、とも言える選抜方法を取り入れた入試であるにもかかわらず、倍率10倍という、スタートダッシュとしては大成功の結果となったことはすでにお伝えした（新フンボルト入試の結果については「[お茶の水女子大「新フンボルト入試」初年度の倍率10倍!](#)」参照）。

今回は、選抜の一部を兼ねている28年度「プレゼミナール」取材した。

## ●「プレゼミナール」とは

プレゼミナールは、初日の文系・理系に分かれた「セミナー受講」と、2日目の文系向けの「図書館情報検索演習」および理学部生物学科志望者向けの「大学院生による研究ポスター発表」「自主研究課題相談会」に分かれている。

初日のセミナーについては、「新フンボルト入試」の受験者は参加が必須で、セミナー受講後に30分程度でレポートを作成する。このレポートは第1次選考でそのほかの提出書類とともに判定に使われる。なお、各セミナーは、受験者のほか、高校2年生およびAO受験者でない高校3年生も受講可能だ。

2日目の図書館情報検索演習は高校2年生とAO受験者でない高校3年生が対象で、AO受験者は受講不可。自主研究課題相談会についても、AO受験者は参加不可。なお、2日目の企画については、高校教員も参観できる。

プレゼミナールの詳細および、新フンボルト入試については「[お茶の水女子大 新フンボルト入試スタート!](#)」をご覧ください。

28年度プレゼミナールは、9月24、25日の2日間にかけて開催され、AO受験者197名、非AO受験者161名が参加した。



初日、開会式。プレゼミナールの全体説明を真剣な面持ちで聞く高校生たち。



「大学での学び」について話す安成教授。

初日に行われた開会式は文系セミナー受講者が集まった教室で行われ、別会場の理系セミナー受講者に対しては、会議中継システムを使った映像が流された。

お茶の水女子大学入試推進室長の安成英樹教授は、「高校での学びは教科書を正しいと思ひ、読み、理解し、覚えて学ぶのに対し、大学ではその正しさを疑ひ、教科書に一文書き加えることを目標に『何か』を見つける営みに従事すること。つまり『知識吸収型』から『知識生産型』へと、学びは変容する」と大学での学びについて説き、「実際の大学の授業時間に合わせたセミナーで、入学後にどのような授業を受けることになるかを体感し、何を学んでいくかを考える参考にしてほしい」と語った。

## ●大学で開講されている講義と同レベルのセミナー

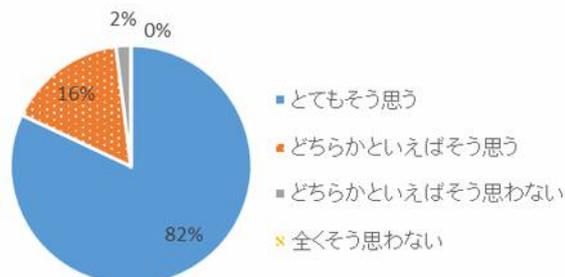
やはりいちばん気になるのは、AO入試の選抜も兼ねているセミナーの内容だろう。28年度プレゼミナールで開講されたセミナーのテーマは以下のとおり。

28年度プレゼミナールのセミナー概要	
<b>文系</b>	<b>理系</b>
<b>セミナー1</b> わたしたちはなぜそのように考えているのか <b>セミナー2</b> 日本とイスラム世界：交流と比較の視点から <b>セミナー3</b> 論理的な文章とはどのようなものか <b>セミナー4</b> 被害の記憶と加害の記憶：錯綜するナショナル・メモリー <b>セミナー5</b> どうしたら子どもは支援されるのか：子どもを支える臨床心理学	<b>セミナーA</b> (生活科学部人間・環境科学科) 生活工学への誘ひ <b>セミナーB</b> (生活科学部食物栄養学科) 食行動の変容～教育的アプローチと環境的アプローチ～ <b>セミナーC</b> (理学部数学科) 余弦定理と非ユークリッド幾何学 <b>セミナーD</b> (理学部物理学科) 簡単な法則の不思議な運動 <b>セミナーE</b> (理学部物理学科) ナノスケールの物理 <b>セミナーF</b> (理学部化学科) 分子から見た香り <b>セミナーG</b> (理学部生物学科) 食品アオサ・アオリ類のDNA鑑定 <b>セミナーH</b> (理学部生物学科) 生物数千万年の歴史解析 <b>セミナーI</b> (理学部情報学科) コンピュータグラフィックスを体験する

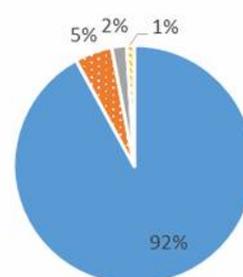
専門的でやや難解そうでありながらも、興味深いテーマが並んでいる。実際にセミナーを受講した高校生は、どのように感じたのだろうか。以下に示したのは、大学実施のアンケート結果だ（文系セミナー受講者 171名、理系セミナー受講者 176名による回答）。

### ①教員の説明はわかりやすかった

文系セミナー受講者

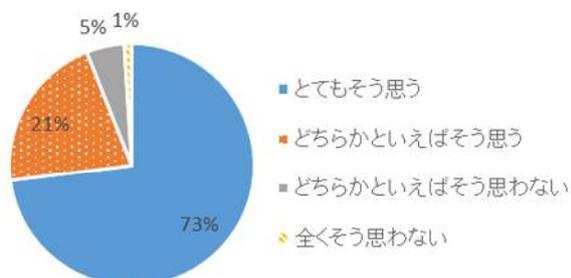


理系セミナー受講者

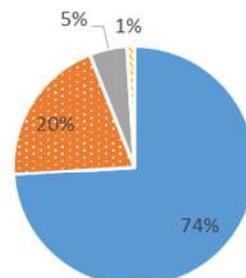


②セミナーの時間は適切な長さだった

文系セミナー受講者

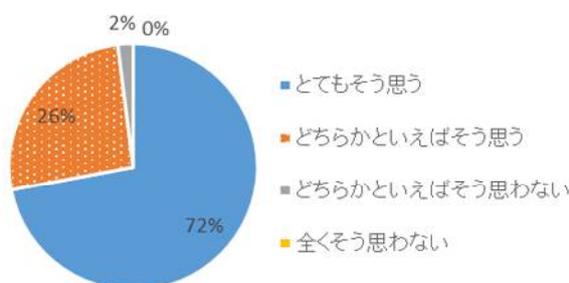


理系セミナー受講者

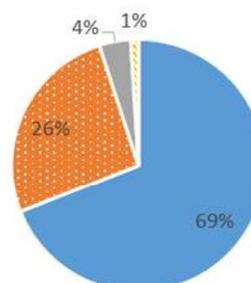


③セミナーの内容を理解することができた

文系セミナー受講者



理系セミナー受講者



セミナーの時間は大学の講義と同じ 90 分間。普段学校で受けている授業に比べて長く、戸惑う高校生もいたようだ。しかし、いずれの質問に対しても、9 割以上の受講者が肯定的な回答をしており、わかりやすく、充実した内容だったことが見て取れる。「全体的に満足できるものだったか」という質問に対しても、文系セミナー受講者：91%、理系セミナー受講者：90%が「とてもそう思う」と回答している。



伊藤亜矢子准教授（学校臨床心理学）による「どうしたら子どもは支援されるのか：子どもを支える臨床心理学」セミナーの様子。



講義を聞くだけでなく、受講者の試行錯誤を促すような内容も。



プレミナールでは、セミナー以外にも「図書館情報検索演習」や「大学院生による研究ポスター発表」などが用意されている。入試に直結しないこれらプログラムのなかにも、学びを深めるチャンスは多い。興味のある人はぜひ、参加してみるといいだろう。



図書館情報検索演習の様子。



生物学科 自主研究課題相談会の様子。